

新年のご挨拶を申し上げます

新たなチャレンジ

新年、明けましておめでとうございます。町民の皆さまには、心新たに、令和5年の新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

さて、この年頭は新型コロナウイルスの話題に触れずに済むことを願っておりますが、再び全国的に感染の広がりがみられます。

また、昨年からの燃油や日用品、食料品に至るまで物価高騰が続き、加えて台風14号が本県に甚大な被害をもたらすなど、厳しい社会情勢が続いております。町といえども、集団接種によるワクチン接種、商品券や給油券の配布、非課税世帯や子育て世帯への給付金支給などをスピード感をもって行ってきたほか、災害復旧についても国や県、関係団体とも連携しながら、今後とも全力で取り組んで参ります。

今年こそは新型コロナウイルスも収束し、災害等のない平穏な年である

ことを皆さまと共に願いたいと存じます。

そんな中でも、様々なことが前進する明るい話題もございます。

九州中央自動車道「五ヶ瀬高千穂道路」は、昨年3月に着工し現在五ヶ瀬町側で工事が進んでいるほか、新年度には上押方から片内間の仮称「童の里トンネル」が着工予定です。また「高千穂雲海橋道路」も着工に向けて準備が進んでおります。熊本県側では矢部から先が令和5年度中に開通いたします。

町では昨年、新規就農に向けた研修支援制度「高千穂ファーマーズスクール」を開講したほか、「高千穂まちづくり公社」の設立、高千穂高校を西臼杵3町で支援する「高千穂高校魅力向上推進委員会」を立ち上げるなど、直面する課題に対応する施策が前向きに進み始めております。また、令和6年4

月からの3町立病院経営統合についても、西臼杵の医療提供体制を持続的に、かつ安定的に維持していくため、しっかりと準備を進めて参ります。

私も、1月19日から2期目の町政を担わせていただくこととなりました。令和5年も、皆さまが安心していきいきと暮らしていただける、活気ある高千穂町づくりに尽力して参ります。

結びに、高千穂町の限らない発展と、町民の皆さまのご多幸、ご健勝をお祈りし、新年のご挨拶といたします。



高千穂日華親善協会創立32周年記念式典

12月9日、台湾花蓮市の魏嘉賢市長ほか約20名が、役場を訪れ、職員らの盛大な歓迎を受けた後、町長室にて歓迎式が行われました。

台湾と本町の交流の始まりは、約50年前。医師不足だった西臼杵郡に台湾より医師、歯科医師を招聘したことがきっかけで、2005年より観光交流を行い、魏市長、内倉前町長らがお互いに訪問するなどし友好関係を深めていきました。

その後、2019年4月には花蓮市議会が、6月には本町議会が姉妹都市盟約について可決。同年10月に甲斐町長をはじめとする訪問団が花蓮市を訪れ、姉妹都市盟約を締結しました。

夜に行われた姉妹都市盟約3周年と高千穂日華親善協会創立32周年の記念式典では、新型コロナウイルスにより3年ぶりに顔を合わせた交流が盛大におこ行われ、甲斐町長が「少しずつ新型コロナウイルス感染症からの夜明けが見えてきた。今後は、さらに強く固く手を繋ぎ、観光、文化、スポーツ、経済等、様々な分野で交流を促進しましょう」とあいさつ。魏市長は「3年ぶりの再会に、い

ろいろな思いがこみ上げてきた。これから手と手を取り合い、観光や文化、芸術等様々な分野で交流を促進し深めていきましょう。また、もっと花蓮市のことを知ってもらいたいため、高千穂の学生たちに旅行や交流のため、花蓮市を訪れてほしいと考えています」とあいさつしました。

その後、記念品交換や記念撮影を行い民謡や神楽を楽しみながら交流を深めました。

翌10日は、高千穂峡内において、姉妹都市盟約記念碑の除幕式が行われました。

魏市長は「任期中最後の訪問となるが、記念碑の落成式に参列できることを大変光栄に思う。今後は、どのような立場であっても、高千穂町と花蓮市の交流と発展に常に気を配っていききたい。花蓮市と高千穂町の友好関係が未永く続くことを祈念します」とあいさつしました。

記念碑は、地球儀がモチーフになっており、お互いの関係を示す上で、町長の好きな写真が添えられています。

